

平成 27 年度 第 1 回南砺市行政改革推進委員会会議録【全文（一部意識）】

1. 開催日時 平成 27 年 7 月 31 日（金） 午後 2 時から午後 4 時 30 分
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 講堂
3. 出席者 ○委員 16 名
松本久介委員、永森常次委員、安達行成委員、野原教正委員、
島田勝由委員（副委員長）林則雄委員、中嶋與四雄委員、蟹野正男委員、
長尾治明委員（委員長）、石黒厚子委員、長谷川邦子委員、
山田栄子委員、本多峰子委員、宮下直子委員、沖田光弘委員、
中野ミチ子委員
○行革推進本部 11 名
田中市長（本部長）、工藤副市長（副本部長）、高田教育長（副本部長）、
長澤市長政策室長、高山総務部長、杉村民生部長
原田産業経済部長、大西建設部長、豊川教育部長、
森田地域包括医療・ケア局長、清水議会事務局長
○事務局（行革・施設再編課）5 名
上口行革・施設再編課長、
石崎施設再編係長、吉田副主幹、長岡行革推進係長、野村主査
4. 欠席者 ○委員 2 名
上埜慎也委員、野村玲子委員
5. 傍聴者 1 名
6. 議題 1) 南砺市公共施設再編計画（H23～H27）の進捗状況について
2) 南砺市公共施設等総合管理計画（案）（H27～H56）について
3) 次期南砺市公共施設再編計画（H28～H57）の作成について・
4) 第三セクター改革プランの作成について
5) その他

○開 会 午後 2 時

【行革・施設再編課長】

ただ今より、平成 27 年度南砺市行政改革推進委員会を開会いたします。

委員の皆様には、何かとご多用のところをご出席いただき、誠にありがとうございます。私は、本会議の進行を務めさせていただきます。市長政策室 行革・施設再編課長の上口でございます。よろしくお願い致します。本日の会議には、野村委員、上埜委員から、所用のため欠席のご連絡をいただいております。なお、出席委員及び市側の出席者につきましては、お手元の座席表のとおりとなっております。

それでは、開会にあたりまして、本委員会の 委員長からご挨拶をいただきたいと思います

ます。委員長、よろしくお願い致します。

○委員長あいさつ

【委員長】

開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げたいと思います。暑い中お集まりいただきましてありがとうございました。今日の資料も厚さがありますが、一言で言うと、南砺市が所有している公共施設のあり方について、今後どのように運営していくか、が大きなテーマになると思います。私も富山市の地方総合戦略の委員会に呼ばれていますが、各自治体では、国の要請で9月か10月くらいまでに計画の検討をしなければならぬとのことで、大変な作業になっている中、これからの市政、まちのあり方について、総合的に考えていかなければならない時期にあると思います。富山市では、中核都市としてどう維持していくか、人口30万人を切ってしまうと中核都市から除外されますので、政策的な面からも30年後の人口を検討しているところです。除外されると、助成金等に大きな影響がでますので、最低限の基準をどうクリアしていくかが課題となっています。県でも公共施設も含めた今後のあり方が検討されています。以前は、人口も税収も成長拡大していましたが、バブルが崩壊以降、人口が減少しており、どう維持していくか、また安心して暮らせるか、を多くの方が望んでいるのではないかと思います。公共施設についても、社会の仕組みが大きく変わっていく中で、今までのように投資を続けていくことが不可能な局面になっています。税収が少なくなって、企業の活力も弱まっている中、歳出はコストダウンしていかなければならず、歳入と歳出のバランスをどう考えていくかが重要になってきます。南砺市においても、8つの町村が合併し、これからは、市としてどうあるべきか、大きな視野に立つ必要があると思います。個々の要望はあるでしょうが、何のために8つまちが一つになったのか、ぼやけることがないように大局的な視点を持つことが重要なポイントになります。公共施設として必要なもの、廃止するもの、修繕、再利用していくものなど、分けて考えていく必要があります、全て残していくとすれば運営コストがかかってしまいますので、かなり知恵が要求される課題を今日検討していただくことになると思います。思い切った考え方に切り換えていかないと、これからの南砺市の存続そのものも厳しい状況になりつつあります。入善町、朝日町、氷見市などと同様、人口減少の問題も抱えています。住民が生き生きと生活していける南砺市となるよう、みなさんの知恵や考えをいろいろと出していただければと思います。資料がたくさんありますが、事務局の説明の後、活発な意見を出していただけるよう進行を努めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願い致します。開会のあいさつとさせていただきます。

○本部長【市長】あいさつ

【行革・施設再編課長】

続きまして、南砺市行政改革推進本部長であります市長からご挨拶を申し上げます。

【市長】

本年度の第一回目となります南砺市行政改革推進委員会に大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございました。

委員長のごあいさつにもありましたが、地方創生について、全国の市町村が計画策定に取り組んでいるところです。昨年の選挙から、この内閣はスピード感をもって進めていきましたが、ここにきてどうなっているのかストレスがたまってしまう状態にあります。予算的なことだけでないのですが、相当がんばれば相当予算がくると言われていましたが、少し残念な感じがします。もう一度足元を見据え、将来をどう描いていくかという重要な年と位置づけて様々な計画、事業に取り組んでいきたいと思えます。行政にとっては、そんなに先をみた計画は作ったことがないのですが、今回の地方創生の長期ビジョンでは、45年後を見据えていきます。その中で、市として何もしなければ人口が2万3千人ほどになるのではないかと推計されていますが、今回の総合戦略では3万人を守るんだ、という計画を作っています。8月2日には、4回目の審議会を開催し、あらかじめ仕上がってきたものを提案したいと思っています。今回の地方創生は、国や県の予算付けがありきではないと考えなければなりません。いろんな事業を取捨選択し展開していく上で、何を削るかについても考える必要があります。これが全て公共施設の話ではないのですが、効率的に将来まで持続する、人口は減っているが、幸福感を持って生活するにはどうあるべきか、若い人たちや子育て世代も含め、いろんな方々にこの地を選んでもらえるようにするには、どうあるべきかを議論していきたいと思えます。公共施設の白書で述べている30年間で、各施設をどうするべきか、財政シミュレーションも行ってみましたし、民間の方に活用してもらい、さらにサービスをアップしたり生産性を高めたりしてもらえないか、ということも視野に入れながら、30年後を見据え、何が必要で、どのように活用していくかを早めに考えていく必要があります。合併まちづくり計画は10年間であり、今年は11年目でありますので、今回、将来に向けた公共施設の計画になりますが、庁舎はどうあるべきか、普通に使っているもの、あまり使われていないものも含め、いろんな事を考えていくべきだと思っています。地域住民のサービスを維持しつつ、どうコストを下げしていくか、委員のみなさんの知恵をかしていただきながら、また市民のみなさんと共通認識を持ちながら、我々の子供、孫、曾孫のための地域づくりを確実に丁寧に進めて行くことが大切だと考えていますので、よろしく願いいたします。

○議事

【行革・施設再編課長】

ありがとうございました。それでは、予定の議事に入らせていただきますが、ここからの進行は委員長さんをお願い致します。

【委員長】

では、これから議事に入りたいと思えます。本日は協議事項が5項目ありますので、順

番に進めたいと思います。まず始めに、南砺市公共施設再編計画(H23～H27)の進捗状況につきまして事務局から説明をお願いします。

〔事務局から説明〕

【委員長】

事務局から説明いただきました。質問、ご意見など、どなたからでも結構ですので、よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

【A 委員】

数値的にはいろいろなものが出されていますが、何があったのか分かりにくいこともありますので、この中で大きな事項について教えてください。

【施設再編係長】

児童館や文化センターの指定管理を今年度から開始しています。ぬく森の郷につきましては、地元の方の合意を得て、民間への譲渡に話が進んでいるところです。

【A 委員】

それぞれの施設がどういう状態なのかが少し分かりにくいです。

【施設再編係長】

表の見方について説明しますと、再編等の方向性で、進捗状況の欄では、例えば上平行政センターの下島職員宿舎に二重丸がついています。これは、24年度に機能変更が実施された事を意味しています。それぞれの施設について、実行済みなのか、整備計画が決定したか、また交渉中なのか、を「◎」、「○」、「□」、「△」などのマークで示しています。

【B 委員】

城端の保健センターは、この計画であがっていないのですが、その理由は何でしょうか。

【施設再編係長】

現状維持のものについては、除かさせていただいております。地域包括医療ケアセンターへの移転を予定している井波保健センターなど、その他の保健センターについては計画にあげています。

【B 委員】

ここにはないものは、現状維持だと理解すればよいのでしょうか。

【施設再編係長】

その通りでございます。

【C 委員】

資料1の右の列に、平成26年との比較増減が書かれていますが、表の見方で何が何に該当しているのか分かりにくいです。

【施設再編係長】

右から2列目が平成26年9月30日現在の進捗状況でして、これと昨年度末を比較したものが、右の列になります。例えば、「□」の交渉中・協議中の事項としては、32箇所だったものが35箇所になり、3箇所進んだことを示しています。具体的には、2ページの上から3つ目、利賀総合センターが現在の機能を他施設に移管する方向性となっています。また、9ページの北野児童公園については、地元管理へ移管として話が進んでいるところです。また下から2段目、民謡の里が、指定管理団体の見直しを行うこととしています。

【行革・施設再編課長】

「△」から「□」にあがった場合や「□」から「○」に変わったものが、進捗していることになります。

【D 委員】

「◎」は、実行済又は実行が概ね決定とありますが、課題が結構残っているものがあります。今後課題に対して、どう対処していくのか、あるいは違うことをするのか、「◎」の位置づけがどこまでの事を意味しているのですか。

【行革・施設再編課長】

「◎」については、この計画で決められているように進んでいるか、ということであり、ます。課題のあるものについては、今後の再編計画で深く掘り下げていくこととなります。

【委員長】

当初の事業計画に対してどうなったかをみた上で、課題があるものについては、今後の計画で進めていくことになるのでしょうか。

【行革・施設再編課長】

その通りでございます。

【委員長】

この他にも何かあれば、後ほどご意見いただければと思います。では、続きまして、南砺市公共施設等総合管理計画（案）」について事務局から説明をお願いします。

〔事務局から説明〕

【委員長】

ただいま、事務局から「南砺市公共施設等総合管理計画（案）」について説明がありました。ここからは、各委員の皆様から、ご質問・ご意見をいただきたいと思います。どなたからでも結構ですので、よろしくお願いいたします。

【行革・施設再編課長】

補足説明させていただきます。資料No2-3につきまして、12ページから、各地域の人口推計がそれぞれ載っていますが、住民説明会等から、削除しておいた方がよいという意見をいただきました。白書にはしっかりと記載していますので、削除させていただきたいと考えています。また、36ページ以降は、集会施設等、施設類型ごとに書かれており、縮減面積と相当施設数が載っています。ある程度は想定してこれを作っていますが、末尾の一覧からある程度分かるものもあります。いたずらに議論をかきたてることがないように、施設数は抜いた方がよいのではないかと、という意見もありました。これを削除して、縮減率と縮減面積までの表現にしようと考えていますので、この2点も踏まえてご意見を賜ればと思います。

【E 委員】

資料2-1に「将来へ持続可能なまちづくりに向けて」とキャッチフレーズが書かれており、私はこれでよいと思いますが、資料2-4では、「将来へ持続可能な行政運営のために」と書かれています。市町村合併の時につくづく思ったのですが、役所が生き残るための合併なのか、住民がちゃんと暮らしていけるようにするためなのか、ずっと自問自答しています。単に役所が生き残るためではないと思います。一生懸命がんばって将来まで維持が可能な施設の検討は、住民のためにあるべきだと思います。なぜここでキャッチフレーズが変わってしまったのか分かりません。

【行革・施設再編課長】

おっしゃるとおり、市民住民のための持続可能なまちづくりでありますので、ご指摘のとおり修正してまいりたいと思います。

【F 委員】

ダイジェスト版の5ページに、「民間に運営を移行することも含めてだよね」と書かれています。指定管理も民間の活用だと思いますが、完全に民間に移管することも含めて考

えているのでしょうか。

【行革・施設再編課長】

民間に本来やっていただくべき事は民間にまかせるべきであり、民間への譲渡も含めて記載しております。

【F 委員】

今後指定管理が増えていくことイコール民間移行ではないと思います。指定管理の場合、頑張っても頑張っても赤字が減らない事もあります。それでも完全に民間に移行することもあるのでしょうか。

【行革・施設再編課長】

最近の指定管理につきましては、原則として全国に公募することとしています。今あるサービスを落とさず、かつ施設を活用して事業者が稼いでもらえるような事も積極的に取り組んでいくべきだと思います。市の負担の軽減も含め、いろんな角度から考えていくべきだと考えています。

【E 委員】

資料2-3 36ページから施設ごとに、短期、中期、長期に分けて取組が記載されています。5年以内でやるべきもの、後半にゆずるべきものの考え方だと思いますが、気になるのは、例えば図書館だと、15年間さわりません、とっているように見えます。16年目以降、4つ減らすものとか、博物館は前半に進める、小学校は15年間何もせず16年目から5校ほど何かする、のようになっています。早く取り組まなければいけないところは早くしなければならぬ気がしますが、この区分けについては、内部や外部も含めて相当も練って作られた構想なののでしょうか。

【行革・施設再編課長】

資料の見方について説明させていただきます。基本方針は、30年間でどのように取り組むのか、短期目標は1年から5年にかけてどう進めるか、中期については、6年から10年にかけての考え方を記載しています。人口面、財政面で、今後を想定した内容になっています。実際に今後検討していく中では、本当にひとつにしているのか、といった議論もでてくると思います。面積的なもの、利用状況も考えながら次の再編計画に移っていくこととなります。あくまでも、シミュレーションに基づいた場合としての総合管理計画ですので、実際の施設再編計画とは異なってくるものになるだろうという認識は持っています。

【E 委員】

ここまで具体的に施設ごとの区分で数値を示しているのですから、病院や消防も含めて、分か

りやすく書かれているので、相当もまれたのですか、と聞いています。

【市長政策室長】

相当もんでいます。実は、すでにどの施設が該当するか、名前をあげようと思えばあげられます。経費のかかる施設で老朽化したものは、なくした方が経費的に安上がりますから、再建築年度で壊せばどうかという案になっています。また、5年から10年まで何もしないというわけではなくて、例えば図書館の基本方針をみていただくと、短期で今後のあり方について計画を策定します、とあります。基本的に15年まで数値があがっていないものについては、施設のあり方、集約のあり方をしっかり検討していくということで、新しく作った施設であったり、市民の生活に密着した施設もありますから、すぐにどうこうするということはできません。あてずっぽうに、縮減の面積を書いているわけではありません。それをより具体的に説明するのが、後で説明します南砺市公共施設再編計画です。総合管理計画は理想論です。30年後の孫達の事を考えると、これくらいやらないと財政的に他のサービスができなくなりますという試算です。再編計画は、市民のみなさんにご相談しながら策定していきますので、この施設は残して欲しいという話になるかもしれません。そのためには、将来に負担を残さないために、せめて維持管理の何割かは今の世代から残しておきましょう、お金を残しますという合わせ技の計画になるということです。

【行革・施設再編課長】

確認ですが、中期は6年から10年まで、長期は11年から30年までという意味合いでございます。

【委員長】

企業の経営計画では、短期目標、中期目標という言葉を使います。その場合、短期は1年から5年まで、中期は1年から10年まで、長期は1年から30年までのことを示しています。具体的な年数について、誤解のないように言葉の説明があった方がよいかもしれません。

【行革・施設再編課長】

期間の表現については、修正したいと思います。

【G 委員】

先程の説明の中で、地域別の住民の人口については、出さない方がよいのではないかとありました。地域によっては、高齢化が進み、本当に少なくなってしまう衝撃的な数値ではないかと思いますが、目標の人口数値も発表しておられるようですし、現在の状況はみなさんもお存じかと思いますが、そんなに隠すような数値ではないかと思いますが、今後の再編計画を考えていく上でも、人口や年齢層は重要なポイントとなりますので、総合管

理計画で表すことが必要なのではないかと思えます。もう一つ、施設数を書いた表について、ダイジェスト版に書かれている削減施設数は、想定されたものだと思っていたのですが、削除されるとの説明がありました。なくてよいものかもしれませんが、お出しになってもよいのではないかと思えます。また、新規のものは原則作らないという覚悟を示されていると思ったのですが、将来の若い人たちが夢を持てる明るい未来を見据えるときに、どんどん縮小されるイメージをもってしまいますので、それによって財政的に健全になり安心して暮らせるような南砺市なるというようなことも訴えていけばよいのではないかという印象を受けました。

【市長政策室長】

人口につきましては、白書ではっきりと推計しています。30年後の孫の世代に今と同様なサービスをえられるようにするにはどうあるべきか、財政シミュレーションを踏まえて、これくらいの施設数でよいのではないかという提案です。推定はしていますが、決めている訳ではありません。施設数を仮にこれくらいにすると、こうなりますし、財政的にサービスを得られるのではないかという推定です。推定の段階ですから、人口が極端に減る地域とそうでない地域があって、それに基づいて再編計画をするのではないかということは何度も問われました。そうではなくて、委員長が冒頭に言われましたように、南砺市全体として考えなければなりませんので、そういった誤解がないように省けばよいのではないかというご提案をしています。これで全てはできませんので、この後に説明します次期再編計画では、利用者数も関係してきますので、総合管理計画の表からは除きますが、再編計画では検討しなければならないと考えています。同じように施設の数につきましても、すでに削減する施設が決まっているという誤解が生じるのではないかという強い指摘がありました。そうではなく、あくまでもシミュレーションの段階であるということで、施設の数については省かせていただきます。その代わりでもないですが、再編計画では、きちんと、数ではなく名前が出ます。それは、みなさんと一緒に決めていく、残すべきではないかということも含めて決めていくこととなります。最後に、つぶすばかりで、時代にあった新しい施設を作れないのではないか、という点については、資料2-4の書かれている表現、「既存施設の更新」の部分ですが、古くなった施設をいくつかつぶして、「複合施設」を作り、時代にあった新しい施設を作る、単なる施設ではなく、子供も、女性も、若い人たちも利用できるということが書かれていませんので、もう少し読み取れるような表現に直せばよいのではないかというご指摘として受け止めさせていただきます。

【G 委員】

削減される面積があることは、想定している施設もあるとのことで、もしかしたら自分の地域のこの施設なのではないか、という意見もでてくるかもしれませんが、その時は、今のように説明されるのでしょうか。

【市長政策室長】

これは、説明会用のダイジェスト版でありますし、まだ総合管理計画も案であります。まちづくり基本条例では、決めてから説明に行くなどということになっていきますので、案を作る段階、決める段階で、地元の意見を聞きましょうということになっていきますので、ダイジェスト版も案です。全戸配布する際は、先程の話に出ている施設数は削除していきますし、方針も明るい希望に受け取られるような文章も加えていきたいと思えます。すでに全世帯に配った資料ではなく、意見を聞くための資料です。実際やってみると、おっしゃるようなことを言われました。それは、この後に作成する再編計画でつめさせていただきますということ、数については載せない方がよいのではないかとのご提案です。

【委員長】

では、次の議題にいきたいと思えます。「次期南砺市公共施設再編計画（H28～H57）の作成」について事務局から説明をお願いします。

〔事務局から説明〕

【委員長】

只今の説明に関しまして、ご質問、ご意見などございますでしょうか。

【E 委員】

住民説明会も終わったこの段階で聞くアンケートは、どのようなイメージでしょうか？

【施設再編係長】

施設利用の頻度などです。月に1回ほど使っているのか、年に何回ほど使っているのか。また利用料金についての意見です。利用料金が住民のみなさんにとってどうなのか、妥当なのか、高いのか。また、総合管理計画で基本方針を示しますので、それに対する意見を聞きたいと思っています。50%縮減という計画ですので、廃止する際の考え方に対する意見、廃止するとすれば、どのような施設がよいか、等をアンケートに盛り込みたいと思えます。

【E 委員】

かなりこまかい、難しい内容になる気がします。

【委員長】

具体的なことを書くことになると、みなさん億劫になります。分かりやすい説明を質問の中でもしなければいけないと思えます。外部に委託されるのですか。

【施設再編係長】

外部の業者と相談しながら決めていきたいと思います。

【委員長】

外部の業者ですと、専門的な視点から、市役所の意図をくみとって、分かりやすいアンケートを作ってもらえると思います。

【松本員長】

施設も広範囲になるので、どの施設に何回行って、利用料金がどうか、など、かなり難しい気がするのですが。

【委員長】

アンケートの調査会社が専門家ですので、おまかせ頂ければ大丈夫だと思います。

【B 委員】

アンケートは、3,000人がどうなのか、どの世代から聞くのか、ここに住んでいない大学生には送るのか、など、今のところの考えを教えてください。

【施設再編係長】

年齢につきましては、男女とも幅広くとりたいと思っていますし、回答数が均等になるように、回答率が低い若い人には多めに発送したいと思っています。大学に行っている場合は、こちらに住所があれば送れるのですが、住所がなければ難しいのではないかと、現時点では考えています。

【B 委員】

成人式に配ることとかもできると思いますが。

【行革・施設再編課長】

考えてみたいと思います。3,000人の件ですが、1,500人のサンプルをとれば、統計的には後はどれほど増やしても一緒と聞いています。それも踏まえて、確実にとれるということで3,000人としています。

【G 委員】

例えば、プールや図書館など、施設名を選んで利用頻度を問うものもあれば、若干フリーで書いてもらう部分もあってもよいと思います。若い年代でいえば、市内の高校に協力いただいて、アンケートをとっていただくという方法もあると思います。大学生は、卒業生の名簿の入手が難しいと思いますので、実家へ送る方法もありますので、工夫すれば若

い世代からとる事も可能だと思います。

【C 委員】

広く市民の意見を聞くのはいいのですが、アンケートをとっただけで、後の処理がスムーズにいかないことも見受けられます。公表すべきではないかと思います。せっかくお金をかけてするので、しっかり結果を検討するのも大切だと思います。

【行革・施設再編課長】

アンケートにつきましては、地域審議会や住民説明会と同様、全て含めて検討することになっていますので、当然、アンケート結果については公表し、説明していきたいと思えます。

【D 委員】

関連して、アンケートをとる前段で、施設の縮減率など具体的なものを出さないとなかなか書けないと思えます。その点では、縮減施設数の見込や形態別の考え方などの資料を出す事が必要だと思います。やみくもに論議を呼ぶから数は見せないという論議では、アンケートの意味がなくなってしまう気がしますでしょうか。

【行革・施設再編課長】

ダイジェスト版の最終版に近いものを同封することにしますし、総合管理計画の末尾にある施設一覧のような件数が多いものではなく、どのような施設があるか分かるものを示していきたいと思えます。

【H 委員】

アンケートと一緒に送るものであれば、私も、もともになっているものがあるのですしたら施設数を出してもよいのではないかと。

【行革・施設再編課長】

面積はしっかり出したいと思えます。

【市長政策室長】

施設はみなさんと一緒に決めたいので、数は入れないということです。施設に57億円ほどコストがかかっていることは、きちりと申し上げますし、施設ごとのコスト一覧表があればよいということであれば、入れさせていただきます。施設の数を入れてしまうと、もう決まっているのではないかと、という話になりますので、みなさんと一緒に決めるということです。

【E 委員】

今後のスケジュールで、9月にアンケートを実施し、結果を踏まえつつ、縮減施設の検討案を作り、地域審議会、住民説明会がありますが、地域審議会に資料を出す前にこの委員会は開催できないでしょうか。

【市長政策室長】

先の説明会においては、総合管理計画は縮減する計画であると、それを踏まえて再編計画では、地域のみなさん、利用者のみなさんにとって、何を残すべきか、ということ計画させてくださいと説明しました。10月に予定しています地域審議会も住民説明会も、総合管理計画では、こういう縮減の方向になり、それを遵守するとういう格好にならざるをえないですが、みなさんどうですか、ということ、決めるのではなくご相談に上がるというのが一回目です。たしかに、審議ではなく、説明だけで終わるかもしれませんが、推進委員会を地域審議会の前に開いて、こういう感じで説明に回りたいという場を設けさせていただきたいと思います。

【委員長】

委員のみなさんは、そのようなスケジュールでよいでしょうか。(同意の声)
では、そのようにスケジュール変更をお願いします。

【I 委員】

3,000人のアンケートをとられるそうですが、層別、年齢別には、どういう風に割り振られるのでしょうか。どの年代もだいたい均等に選ばれるかんじのでしょうか。

【施設再編係長】

現在持っている情報から、年齢による区分で選ぶので、職業別には抽出できません。回答者は、機械的にランダムに選ばれることになり、名前を書いてもらうことはないですが、職業は選択肢の中から選んでもらうことになります。若い方の回答率は低いので、発送数は多めにしたいと思っています。

【委員長】

では、次に、「第三セクター改革プランの作成」について事務局から説明をお願いします。

[事務局から説明]

【委員長】

只今の説明に関しまして、ご質問、ご意見などございますでしょうか。

【J 委員】

三セクといいましても、経営者の方、実務者の方、出資者の方がいらっしゃると思いますが、どのような方を対象にヒアリング等の実施を想定しているのでしょうか。

【行革推進係長】

ヒアリングをさせていただく場面によって対象となる方は違ってくると思いますが、現在の財務分析で調査している中では、経理担当の方、実務的にリーダー格である方に、こまかい点などのお話を聞かせていただいています。この後、改革の方向性の段階になりますと、会社の方針もございますので、社長など全体をとり仕切っている方から話を聞かせていただいて、内容によっては理事や株主の方にもご意見を伺いながら進めていきたいと思っています。

【委員長】

では、最後に、その他とありますが、事務局から説明がありますか。

【行革・施設再編課長】

次回の開催予定につきまして、次期公共施設再編計画、行政改革実施計画進捗状況等についてまとめてきますので、アンケートの件も含めて10月頃、そして12月、2月と、今年は4回、状況に応じて開催させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

【E 委員】

全部ではないのですが、公共施設が建っている土地が借地になっているところが地域によって結構あると認識しています。プランを見てみると、土地の持ち主が反対しているとか書かれています。下の地面が誰のものか、家賃をずっと払い続けていることがどれだけ負担になっているのか、平行して明らかにしていくべきではないかと思います。箱物をつぶすつぶさないの議論をしている中で、土地の所有者が違っている場合には明らかにしていくべきだと思いますが、いかがでしょうか。

【行革・施設再編課長】

今日の資料には書かれていませんが、維持管理費の中にそのようなコストも入っていますので、当然、検討していく上での材料になってきます。補助金、起債等も、今後検討していく上で重要なポイントになってくると思います。

【委員長】

他に何かありますでしょうか。議題は以上ですが、副委員長、全体を通して、何かご意見などあればお願いします。

【副委員長】

私自身、10数年前を振り返ってみたのですが、相当ショックで、数字に驚いているところです。誰か合併を考えた人がいたでしょうか。8町村が生き残りをかけて、また右肩上がりの経済成長の時代でしたので、物を作ったのですが、それが大変重荷になっている今が大事なスタートであると思います。その責任を追求することではないのですが、県都の富山市ですら30万人を割らないように目指し、南砺市も人口5万2千人が30年後には3万2千人になるということが現実味を帯びているようです。これを深刻に受け止めて、当然固有名詞は避けながらも、施設が多いので先の事を考えていかなければならない。数値を赤裸々に市民のみなさんにお示しして、時間がかかっても一人でも多くの理解を得てこそ、30年後の南砺市の未来を築いていくことができるのではないかと思います。これからも、皆様方の忌憚のないご意見やアンケートの結果を受け止めながら進めていかなければならないと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。以上で、今日の議題を滞りなく終了できました。今日いただいた意見は事務局で整理して次の委員会につなげていただきたいと思います。南砺市が所有している公共施設を今後どうしていくか、みなさんに真剣に議論いただきました。その中で、G委員さんが指摘されましたが、削減という言葉から多くの方は、やはり暗いイメージを連想されると思いますので、削減によってどういう効果があるか、財政の安定化や収支のバランス等も考慮し、今後思い切った方向を考えていかなければならないと思います。決して暗い方向の判断ではないということ、分かりやすく示していただきたいと思います。アンケートによって各地域の施設の稼働状況や利用状況、コストが検討されていきますし、住民からみた施設の必要性も明確になってくるかと思えます。アンケートは住民のご意見ですので、供給サイドと住民サイドのずれとか意識のずれが、比較できるような内容を考えていただきたいと思います。今後のサービスの水準とどの程度の施設のサービスになるかという食い違いの質の部分の対応にもつながっていくのではないかと思います。もう一点、施設を利活用して民間に譲渡していくことは今後検討していかなければいけないのですが、それを買いたい、利活用したい側からすると、今後、賑わいや地域振興をどう考えていくか、施策の情報を与えていくことも同時に必要だと思えます。この施設により交流人口も増えていく、だからビジネスチャンスも増えるといった明るい話も同時に企業の応募を求める場合に考えてもらいたいなと思えました。譲渡する中において、業者を探す前に、市が地域について考えている方向性も明示すれば、利用する側からすれば投資する価値があるか、の判断もできると思います。各委員のみなさんからいただいたご意見は事務局で整理していただいて、次回の検討につなげていただければと思います。以上で第一回目の委員会を終了しますが、予定よりかなり時間がオーバーしてすみませんでした。それだけ熱心な議論をしていただいたものと思います。長時間ありがとうございました。

ました。では、この後は事務局にお返ししたいと思います。

【行革・施設再編課長】

本当に長時間に渡り貴重なご意見をいただきありがとうございました。いただいた意見は整理し、次に進めさせていただきたいと思います。それでは、閉会にあたり、市長がご挨拶申し上げます。

【市長】

長時間に渡りご審議いただき、ありがとうございました。私もハッとと思う点があつきました。例えば、資料の理念に関する部分で、行政運営のためにやっているのではない、これは非常に心に刺さるご意見でした。行政に居ると、ふと読み過ごしてしまうのですが、委員のみなさんからご意見をいただいて、私も先程から考えていました。持続可能で幸せなまちづくりに向けて将来負担の少ない心豊かな暮らしのために、住民のために、まちづくりのために、といった将来の負担を残さないような基本理念にしなければならぬと改めて思いました。今後は一切作りません、という言葉は、やはり衝撃かもしれません。民間の方と行政がどうビジネスやまちづくりの中で協力できるか、というところにどんどんシフトしている時代かもしれないと思っています。振り返ってみますと、日本の人口が1億人になったのは、1967年だと思います。その時に、日本は食料危機でとんでもないことになると言われていました。1967年は最近です。私が6歳の頃ですが、これが逆に1億人を切ります、と大変なことになったわけでございまして、当然年齢層、の違いはあるかもしれませんが、そこを補完するためにテクノロジーであつたり、ICTであつたり、今までは作って経済成長したものが、今度は壊すというか、元に戻しながら、新たな成熟したまち、成熟したライフスタイルをいかに提供できるかという時代になってきたとずっと考えていました。これから施設再編計画を作っていきますが、改めて、この委員会の中で、もっとこと細かに意見をいただき、様々な情報をできるだけ公開をしつつ市をあげて考えていきたいと思つています。最後になりますが、作業を進めつつ、このスケジュール以外にもご意見を賜ることがあるかと思つています。皆様方にも日頃から様々な地域でのご意見を聞いていただきながらこの会議でご指導賜りますように心からお願い申し上げます。御礼のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

【行革・施設再編課長】

これもちまして、本日の南砺市行政改革推進委員会を閉じさせていただきます。本日はご多用のところ、ご出席いただき誠にありがとうございました。